



【参加者】

- 目谷 真史 (株セキカワグループ 専務取締役)
- 長谷川英利 (有) プラス 代表取締役
- 堀 律夫 (堀石材工業(株) 代表取締役)
- 南部 尚 (稲見産業(株) 取締役富山支店長)
- 石井 良行 (有) WIZARD 代表取締役

近藤副会頭は、初め緊張気味であった参加者を察してか、「青年部の皆さん、『良い飲みニケーション』にしましょう」と笑顔で元気に乾杯し、一瞬にしてその場をパツと明るくさせた。

その後、副会頭は自らの経歴を紹介した。「昭和40年に社会人になってからちょうど50年目になる。大学卒業後、大手建設会社の大阪支店で勤務。大阪万博の開催に向けて、大阪、日本中が大変貌する高度経済成長期であった。当時の建設現場は今とは違って、ほとんどが手作業、人力であった。足場も鉄製ではなく丸太を使ったものだった。現在は機

械化により省人化がすすんでいるが、建設業で一番大事なものは、一人ひとりの労働者「職人の腕」であることは今も昔も変わらない」次第に談義の内容は、青年部活動の話に変わった。副会頭は「歴史があり、全国にも誇れる富山商工会議所青年部であるが、だからこそ、前例踏襲の考え方はやめて、みんなに必要とされる団体とは何かを常に考えて、勇気をもって新しいことを実行してほしい。そのためには副会頭として協力は惜しまない。本質を見つめ、変える勇気をもってほしい」と語った。

参加者は、お酒を酌み交わしたからこそ分かる、副会頭のらかな人柄に触れ、それぞれ将来や、地域の活性化等に対する思いを熱く語った。

副会頭は話をしながらも、参加者に「飲まれんか」と明るくお酒をすすめ、取り皿を配るなどの気遣いも忘れず、参加者は、トップとしてのあり方、人生、そして、お酒の飲み方までも学び、終了予定時間を1時間以上過ぎた会は再開を祈念して終わった。



副会頭
近藤 駿明
(近藤建設(株) 取締役社長)

会場 「つくも庵」
総曲輪2-16-4

「本質を見つめ、変革する勇気をもってほしい」



【参加者】

- 吉本 準也 (有) 吉本自動車工業 代表取締役
- 勝原 光彦 (勝原塗装(株) 専務取締役)
- 大森 宏樹 (写真の大森 代表)
- 大塚 康平 (大塚消火器店 主任)
- 田中 七海 (株) Rien 代表取締役

今回の談義会場で唯一、西町の居酒屋での開催となった。河上副会頭の生まれ育った地元であるこの場所で、話題は多岐にわたり、北陸新幹線開業の話や、西町再開発の話にまで広がった。

「自分自身、33歳の時に父を亡くした。それ以降30数年にわたり社長を務めているが、その時期、青年団体に所属し活動していた。当然、社長業に専念するため、同団体をやめようと思ったが、仲間や先輩の支援により、活動を続けた。会社は自分一人では何もできない。役員を始め、従業員の力があってこそであるが、活動を続けてき

たことが結果的に良かったと思う」

人との出会いの大きさを伝える副会頭はさらに「自社業だけでなく、青年部活動など、外部の人と交流し、自分になかったものを引き出してくれる人に出会ってほしい。今、このように副会頭を仰せつかっているのも、全てこれまでの付き合い、繋がりの結果であると思う」「人との繋がりに無駄はない。無駄だと思っても何か意味があるはず。自分自身も、先輩がしてくれたことをできるだけ後輩にしていきたいと思っている」と付け加えた。

また、「何かをしたければ、黙っていてもだめ。必ず声を出して実行してほしい。人に会って話し、思いを伝える。そうしていくことで何かが生まれる」「自分自身、そして、家庭を大事に」というメッセージを送った。

当店の料理の締めは大きな土鍋に入った炊き込みご飯。参加者は、副会頭のメッセージを反芻しながら同じ釜の飯を食べ、談義は終了した。

「人との出会いを大切に」



副会頭
河上 弥一郎
(河上金物(株) 代表取締役社長)

会場 居酒屋「黒帯」
西町8-11 西町ビル

